福沢 みゆき の かけある記

2019 年 6 月 15 日発行
第 1 号
発行者：日本共産党
亀山市議会議員
福沢みゆき

　みなさんこんにちは。日本共産党亀山市議会議員の福沢みゆきです。1期目に出していました『福沢みゆきのかけある記』4期目の今月からリニューアルしてスタートします。月に一度お付き合いくださいね。
この１年間の議会での役割は『教育民生委員会委員長』『広聴広報委員会副委員長』『政策検討部会部会員』『鈴鹿亀山地区広域連合議会副議長』です。
議会でしっかり仕事をするのはもちろんですが、亀山をかけ歩き、市民のみなさんの声をお聴きして、暮らし良い、魅力輝く街を作るため力を尽くしたいと思っています。
どうぞよろしくお願いします。

『シングルマザーとこどものサポーター養成講座』を受講してます。

　市民アンケートの結果から、あるいは国民健康保険や介護保険の議論をしていて、市民生活は確実に苦しくなっていることがわかります。
とりわけ貧困率が高いのがシングルマザー世帯です。看過できるものではありません。
そこで、4月から１年間、毎月シングルマザーとこどものサポーター養成講座を受けに大阪へ出かけることにしました。シングルマザー当事者は無料で受講することができることが素晴らしく、こどもさんを連れて勉強され、時には当事者の声を聴かせてくれます。貧困問題、外国人ママ、発達障害、借金、養育費・面会、性暴力・性被害、依存症、教育問題…。実に様々なテーマで講義やワークショップがなされます。
しっかり学んで生かせるようにしたいと思います。

鈴鹿亀山地区広域連合議会ってなぁに？

　現状として、主に介護保険のこと、そして消費生活センターのことなどを担っている議会です。
亀山市議４人、鈴鹿市議8人の、合計12人の定数です。ケーブルテレビの放送はなく、議員の質問や質疑の詳細な広報はないので、できるだけお伝えしていこうと思います。

　昔は介護は家族がするものとされていたのではないでしょうか。介護保険は介護を社会化し、そして本人だけでなく家族をも助けるためできたものです。介護離職、介護殺人などのニュースを聞くたび、もっと社会に頼っていいのに、繋いでくれる人はいなかったのか、と心痛みます。
車の保険や医療の保険は、保険料を払っていればいざの時使えますが、介護保険はいくら保険料を払い続けていても、認定を受けないと使えません。2017年4月から要支援1-2が介護保険から外されることとなり、認定されにくくなるのではないかと心配してました。しかし3月議会の質問で、ここ数年認定率は微増傾向で昨年10月現在で17.2%、窓口で丁寧に対応してもらっていることも確認しました。被保険者の保険料や利用料の負担が年々増えてきてます。
必要な情報がみなさんに届くよう、そしてサービスの内容も向上するようしっかりチェックしていきます。